



2018 年 4 月 10 日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学サイバー文明研究センター開設

David Farber 博士を共同センター長に招聘

ネットワーク化された人工知能など、今日の情報技術の進歩は人間の未来に大きな影響を与えると考えられ、それは新しいサイバー文明の台頭と言って良いほどのインパクトを持つと予想されます。慶應義塾大学は、その新たな文明の発展を真に人類の幸福につながるものとして先導する決意のもとに、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI：駒村圭吾所長）内に、「サイバー文明研究センター」をこのたび開設しました。

この取り組みを世界的なものとするために、共同センター長として、カーネギーメロン大学やペンシルバニア大学で研究を主導してきた David Farber 博士を招聘しました。David Farber 博士はコンピュータ科学と公共政策を専門とし、2000 年から 2001 年にかけて米国連邦通信委員会の技術責任者も務めました。同じく共同センター長をつとめる村井純 政策・メディア研究科委員長とともに、全学的な取り組みを進めます。なお、同分野に研究歴をもつ國領二郎常任理事が同センターの運営責任者を務めます。

1. 名称

慶應義塾大学サイバー文明研究センター

<http://www.ccrcc.keio.ac.jp>

2. 開設時期

2018 年 4 月 1 日

3. 共同センター長



David Farber 博士



村井 純 政策・メディア研究科委員長

※本リリースは文部科学記者会、科学記者会、各社科学部、社会部等に送信しております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（並木）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640 Email：m-koho@adst.keio.ac.jp <http://www.keio.ac.jp/>

【参考資料 1】

慶應義塾大学サイバー文明研究センター

設立趣旨

ネットワーク化され、身体的な制約から解放された知的機能などは、人類が過去数世紀の間、文明の姿の理解に使ってきた基盤的概念について根底から見直すことを迫っています。すなわち、今日の情報技術は単に便利な道具であることを大きく超えて、歴史、統治、労働、文化、そして究極的には人間の存在の在り方そのものに大きな影響を与えるものとなっています。そのインパクトの大きさと幅の広さは、人類が新しい文明の黎明期を迎えており、その文明のあり方によって現実が再構成されていく過程に入ったと言って良い規模であると我々は信じています。変化に対応しつつ、人類の次の進化を支援するためにも、我々は現状の統治や経済、社会、技術の開発の考え方を根本から見直さなければなりません。

慶應義塾は日本に近代文明を導入し、アジアの伝統の中で根付かせるために大胆な先導者の役割を果たしてきました。その過程で、新しい技術の開発に先駆的に取り組むとともに、活用の舵取りにおいても社会に恩恵をもたらすよう、責任感をもって貢献をしてきました。また、慶應義塾は日本という、北東アジアにおいて、技術的に先端かつ開放的で、多様性を認め、自由な民主主義社会を築いた地に所在しています。情報技術面では、アジアにおけるインターネットその他の新技術導入や、その社会性の担保にもいくつかの主導的な役割を担ってきました。このような伝統を持つ慶應義塾は、到来しつつある新しい文明を人類の新たな繁栄や持続可能な発展に役立てる、先導役の責任を担っていると考えています。

この使命を果たすために、慶應義塾大学サイバー文明研究センターは、文理融合型の研究ネットワークとして、慶應義塾全体のエコシステムのプレーヤーを結合させます。そして協力しながら、技術進化の可能性やリスクについての探索を行ったり、社会的インパクトを分析したり、未来を切り拓くための道具や方法を幅広く開発したりしていきます。また、利用する人々の多様な意識や、社会の要請を反映させる技術開発やマネジメント活動に積極的に参加し、技術が関係するすべての人や組織や共同体の間に信頼関係を醸成するものとなるようにします。この取り組みが、平等で、インクルーシブ（排除される人のない）で、意味のある貢献につながるように、本センターでは国内外の関係者との建設的な討論や協力を進め、この重要で、萌芽的な研究分野を開拓していきます。

【参考資料 2】

略歴

Dr. David J. Farber

David Farber was the Distinguished Career Professor of Computer Science and Public Policy at the School of Computer Science (SCS) at Carnegie Mellon University with secondary appointments at the Heinz School and EPP prior to his retirement. He is now the Adjunct Professor of Internet Studies in SCS and Adjunct Professor in EPP. In addition he is a Visiting Professor in the Computer Science Department at Stevens Institute of Technology.

In 2003, he retired from the University of Pennsylvania where he holds the Alfred Fitler Moore Emeritus Professor of telecommunications with appointments in the Engineering School and the Wharton School. . His background includes positions at Bell Labs, the Rand Corporation, Xerox Data Systems, University of California at Irvine and the University of Delaware.

From 2000 to 2001, he served as Chief Technologist for the Federal Communications Commission. He is a Fellow of the Association for Computing Machinery and a Fellow of the Institute of Electrical and Electronics Engineers. He serves on the Board of Trustees of the Electronic Frontier Foundation, EPIC (Electronic Privacy Information Center), ISC (Internet Systems Consortium) and the Stevens Institute of Technology.

Prior to his appointment to the FCC, he served on the U.S. Presidential Advisory Committee of Information Technology.

He was awarded the Sigcomm Award for life long contributions to communications and Philadelphia's John Scott award for Contributions to Humanity as well as an Honorary Doctorate from Stevens and a Pioneer of the Internet Society Hall of Fame.